

デジタル戦略

1 デジタル戦略について

前デジタル戦略(2020~2022年度)ではDXの基礎を築き、信託グループとしての“デジタル”を確立する期間となりました。

2023年度からは、「2030年、一人ひとりがテクノロジーを活用し自らの可能性を上げ、時代の変化に即した新たな信託ビジネス開発・業務効率化を実現し、社会的・経済的価値を創出する」ことをありたい姿として定め、新デジタル戦略のもと、改革を進めていきます。

新デジタル戦略では、テクノロジーの進展がもたらす社会・お客さまの行動変容を捉え、4つの重点取り組み事項を

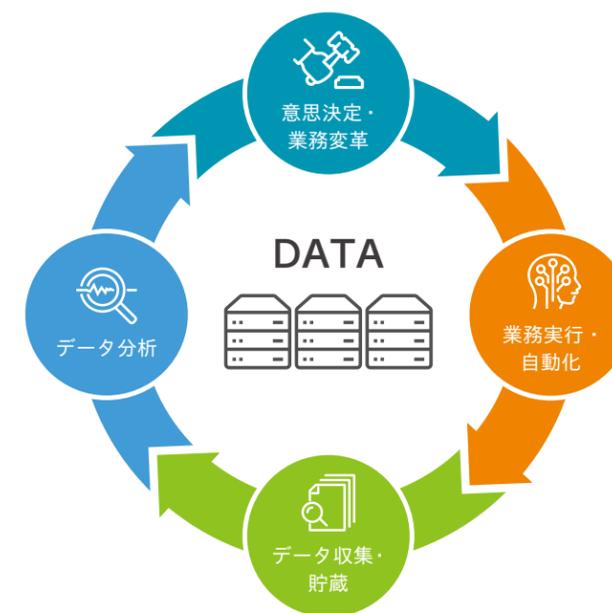
定めています。①Web3、トークン経済圏などの仮想世界の発展を見据えた新デジタル経済圏でのビジネス領域拡張、②当社の保有する多量かつ多様なデータを利活用したデータドリブンな意思決定メカニズムの構築、③スピーディかつ機動的に商品・サービスを提供し顧客体験の改革を進めるオペレーションの抜本的変革、④多様な外部パートナーと共創し、グループ全社のDX実現を支援するデジタル戦略子会社“Trust Base”を起点とした新たなケイパビリティの実装により、グループ全体のDXを推進します。



2 データサイエンスの取り組み

当社は銀行、不動産、年金、証券代行など幅広い事業領域を持ち、各取引において生み出された多量かつ膨大なデータを保有しています。多様化するお客さまのニーズを適切に捉え、最適な商品・サービスを開発・提供するため、データサイエンスの取り組みに注力しています。

数値系・言語系など対象データ領域と分析技術領域の拡大、生成型AIなど先端技術も活用しながらデータ活用能力の高度化を図り、攻め(営業)と守り(内部管理)の両面からユースケースを推進しています。また、今後は業務自動化を進める一方、データを自動で収集・蓄積していくデータ分析基盤を構築し、創出されたデータ分析の結果を意思決定につなげていくデータドリブンサイクルの構築にも注力していきます。



3 デジタルアセットの取り組み

Web3、バーチャルな世界の拡大に伴い、リアルとデジタルの境界はより曖昧になり、人々は意識せずに両方の世界を行き来するデジタルツインな世界が現実化し、トークンを中心としたデジタル経済圏の発展が見込まれるなか、リアルな資産に加え、新しいデジタル資産の安全な管理・運用ニーズが高まっています。

当社はリアルとデジタルのあらゆる資産を管理・運用する信託グループとなるべく、STO(セキュリティトークンオフリング)のビジネス化、暗号資産カストディなど具体

的な取り組みを進めています。

STO領域は不動産を中心にST発行実績を積み上げ、他社との共同インフラ化に向けた出資を行い、分散型台帳技術の発展による金融機能の自動化を見据え、ブロックチェーン技術を組み合わせた業務設計を進めています。

また、資産管理ニーズが急速に拡大している暗号資産領域のノウハウ獲得・蓄積に向け、新会社(JADAT)への出資と人材を派遣し、カストディ業務開始の準備を進めています。

デジタルアセットの分野で信託の新たな可能性に挑戦



池野 裕介 デジタル企画部 (Trust Base)

2010年に入社し大阪で法人営業を経験したのち、マーケット事業で商品開発や投資業務に携わりました。2019年から米国ジョージタウン大学に研究員として3年間派遣され、松尾真一郎教授指導のもとでブロックチェーンの研究に邁進しました。

同大学ビジネススクールのJames Angel教授などと「健全な分散型金融(DeFi)の在り方」というテーマで研究活動に取り組んだ結果、カンファレンス※でステーブル

コインの健全性に関する論文が採択されました。

現在はデジタル企画部でSTOや暗号資産などデジタルアセット業務に携わっています。またWeb3・トークン経済圏における実証実験計画も進めており、新しい信託業務の開発につなげていきたいと思っています。

※ Coordination of Decentralized Finance 2022 (CoDecFin2022)

ノートルダム大学での研究報告会の様子

